

# 職業性関連疾患

## 【Occupational Medicine】

担当責任者 就学・就労支援センターセンター長

**ねらい** 産業医として従業員の健康管理を行うに当たって、疾病(症状)についての十分な知識と経験を有することが不可欠である。本科目では産業現場における事例(症例)を題材として、疾患の予防、診断、治療、社会復帰について総合的に学習することを目的とする。

### 学修目標

1. 労働者において有訴率、罹患率、有症率の高い症状、疾病を挙げることができる。(Ⅱ-4～8, Ⅱ-11, Ⅱ-12, Ⅲ-1)
2. 各疾患(症状)の原因、症候、病態の基本的事項を述べることができる。(Ⅱ-1, Ⅱ-3～8, Ⅱ-11, Ⅱ-12)
3. 各疾患の診断、治療、予後が説明できる。(Ⅱ-5～8, Ⅱ-11, Ⅱ-12)
4. 各疾患(症状)の予防(一次予防、二次予防、三次予防)について説明できる。(Ⅰ-3, Ⅱ-1～8, Ⅱ-11, Ⅱ-12, Ⅲ-1, Ⅲ-4, Ⅲ-5)
5. 疾患(症状)を有する労働者の就労管理について説明できる。(Ⅰ-3, Ⅱ-4, Ⅱ-6, Ⅱ-8, Ⅱ-11, Ⅱ-12, Ⅲ-1～5, Ⅳ-11)

### 事前事後学習の方法

1. シラバスに記載されている授業項目について、参考書などで事前に予習しておくこと。
2. 配布された講義テキストを熟読して講義内容の復習をすること。

### 成績評価方法・基準

出欠状況を加味し、総合的に判断する。

### ○教科書

特に指定しない

### ○参考書

騒音性難聴に関わるすべての人のためのQ&A(一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会産業・環境保健委員会編)  
[https://ibarakis.johas.go.jp/wp/wp-content/uploads/2018/11/souon\\_20181128c.pdf](https://ibarakis.johas.go.jp/wp/wp-content/uploads/2018/11/souon_20181128c.pdf)

講義:2401講義室

年月日	曜日	時限	授業項目(内容)	コアカリ項目			担当者
				大項目	中項目	小項目	
R3.4.1	木	I	職業性神経疾患	B	5	4	岡田 和将(神経内科学)
"	"	II	循環器疾患と職業・ストレス	"	"	"	尾上 武志(第2内科学)
"	"	III	産業保健領域での画像診断 ～定期・特殊健康診断から”がん検診”まで～	"	"	"	草野 涼(放射線科学 学外)
"	"	IV	職場に関する腰痛および運動疾患	"	"	"	筒井 隆夫(整形外科 学外) 中村英一郎(整形外科)
"	"	V	労働眼科	"	"	"	成瀬 翔(眼科学)
4.2	金	III	職場のメンタルヘルス	"	"	"	新開 隆弘(精神医学)
"	"	IV	職業性関連胸部悪性腫瘍	"	"	"	田中 文啓(第2外科学)
"	"	V	職業性関連疾患と産業医活動	"	"	"	林 剛司(衛生学 学外)
4.5	月	I	職業性肺疾患・胸膜疾患・感染対策 (※)	"	"	"	矢寺 和博(呼吸器内科学)
"	"	II	女性労働者の健康管理	"	"	"	松浦 祐介(広域・発達看護学)
"	"	IV	労働と消化器疾患 ～産業医の役割～	"	"	"	浅海 洋(第3内科学 学外)
"	"	V	騒音性難聴	E	4	3	鈴木 秀明(耳鼻咽喉科 ・頭頸部外科学)
4.6	火	III	職業性皮膚疾患	B	5	4	中村 元信(皮膚科学)
"	"	IV	熱中症 有機溶媒中毒など	E	4	3	堀下 貴文(麻酔科学)
"	"	V	治療と仕事の両立支援	B	5	4	佐伯 覚(リハビリテーション医学)
4.7	水	III	職業性関連泌尿器科疾患	"	"	"	真鍋 憲幸(泌尿器科学 学外)
"	"	V	職場で遭遇する外科的疾患と処置	"	"	"	井上 譲(第1外科学)
4.9	金	"	糖尿病労働者の健康管理	"	"	"	新生 忠司(第1内科学 学外)